都道府県番号	１　２
都道府県名	千　葉　県

【　①□　②レ　③□　】

Ⅰ　学校名及び規模

学校名	佐倉市立佐倉小学校								
学　年	１年	２年	３年	４年	５年	６年	特殊学級	計	教員数
学級数	5	4	4	4	5	4	2	２８	４０
児童数	169	142	151	145	173	157	4	９４１	

Ⅱ　研究の概要

（１）　研究主題

一人一人の児童に，「確かな学力」を身につけさせるには，どうすればよいか。

（２）　研究主題設定の趣旨

いま，児童一人一人に各教科等の「基礎・基本」を確実に身につけさせ，「確かな学力」を保障することが強く求められている。「確かな学力」を身につけさせるために，まず大切なことは，日常の学習指導のなかで，個に応じた指導を充実し，一人一人の児童に，基礎・基本の定着をはかることである。

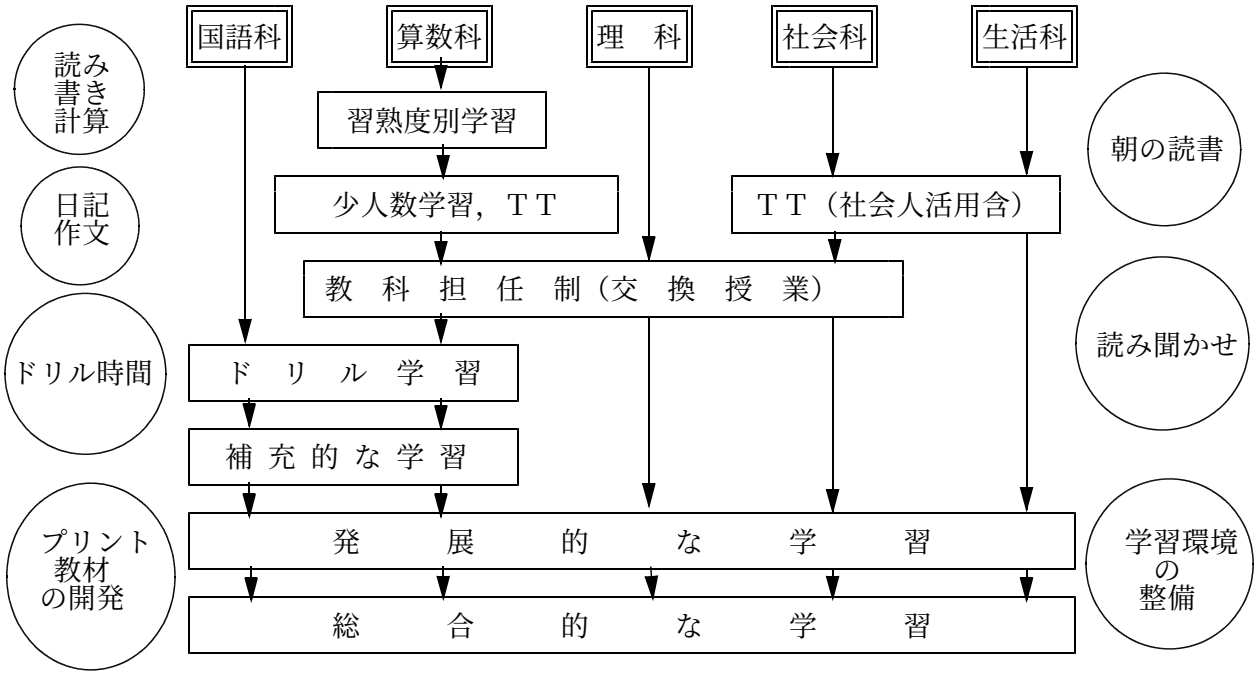
これまでに本校は，「まごころ教育」を全ての教育活動における基盤とし，「自ら学ぶ力をそなえた，心豊かなたくましい子どもの育成」という教育目標のもと，児童一人一人の個性を大切にし，基礎・基本を一層徹底するとともに，知育・徳育・体育の調和がとれ，主体性，創造性を備えた人間性豊かな児童の育成に向けて日々実践を積み重ねてきた。実践研究においては，算数科の学習で，平成５年度から１１年度までティームティーチングを実施してきた。そして，平成１２年度は４年生を，１３年度は１年生を各学級二分し，２人の教師が別々に教える算数科少人数指導も行ってきた。このことにより，きめ細かな指導を行うことができた。また，平成１３年度は算数科以外の教科において５，６年生で，学級間交流授業（２学級間による教科担任制）を行った。交流授業を行うことにより担当教科において，より詳しく教材研究を行うことができ，児童への指導を充実することができた。お互いの交流が教科内容の指導のみならず，生徒指導においても役立った。そして，平成１４年度は，５教科（国語科，社会科，算数科，理科，生活科）において，一人一人の実態に応じた指導を行ってきた。本校の児童は，作業学習や与えられた課題に対し熱心に取り組める反面，自ら問題を見つけ，よりよく解決したり，自分なりに表現したりすることは苦手である。また，学年がすすむにつれて，個人差が大きくなり，進んで学習するという面での消極性も見られる。指導する側も，指導技術等の基本を磨いていかなくてはならない。

そこで，本年度も昨年度の成果と課題をふまえて，より実践を充実させるため５教科（国語科，社会科，算数科，理科，生活科）において，指導形態の工夫について取り組み，基礎的・基本的な事項が児童一人一人に身につくようにするとともに，各教科の学び方を習得させ，確かな学力の向上を図るべく，本主題を設定した。

Ⅲ　研究の概要

（１）　研究推進体制の工夫

本研究は，５教科において以下の形で，実践してきた。



（２）　研究の実際＜算数科年間指導計画の中に意図的に発展的・補充的な時間を入れた事例＞

ア　ねらい

本校は，教育課程の編成を工夫しているため，各学年８時間程度の余剰時数をとることができる。この余剰時数を発展的・補充的な時間として，個別指導を行ったり，本校で作成した計算プリントに繰り返し取り組んだり，発展的な問題に挑戦したりする時間として活用している。このように，年間指導計画の中に，発展的・補充的な時間を入れることによって，児童一人一人に基礎・基本の確実な定着を図ることがねらいである。

イ　指導の実際

年間指導計画作成にあたって，余剰時数を活用して，４年生の小数の単元に１時間の発展的・補充的な時間を設定した（資料１）。これは，具体的な場面において様々な量を小数に表す活動を通して，小数が既習の十進位取り記数法を拡張させたものであることに気づかせ，本単元の基礎・基本である小数の意味をしっかりと理解させるためである。

また，１年生のひき算の単元にも３時間の発展的・補充的な時間を設定した（資料２）。くり下がりのあるひき算は，２年生以降の算数科の学習において，とても重要な単元である。３時間の発展的・補充的な時間に，個別指導を行ったり，繰り返し計算問題に取り組んだりすることによって，よりひき算の理解を深めることができた（資料３）。

４年生のわり算の単元では，習熟度別少人数指導（じっくりコース…理解のゆっくりなグループ，チャレンジコース…理解の進んでいるグループ）を行っていく際に生じる時間の差も発展的・補充的な時間とした（資料４）。じっくりコースで２時間扱ったのは，仮商を修正して適当な商を立てる算数的思考は困難なためである。その一方，チャレンジコースでは，既に学習済みの児童も多く，より多くの問題に取り組み，基礎・基本をしっかりと定着させることが必要なためである。

発展的・補充的な時間を活用することで，理解のゆっくりな児童への個別指導を行ったり，計算プリントに繰り返し取り組ませたりするなどして，各単元ごとの習熟を図り，基礎・基本をしっかりと定着させることができた。また，既習事項を生かして，数を拡張した問題へと発展させていく考え方も身についてきた。

補充的な問題は主に計算プリントを活用した。理解の進んでいる児童は計算プリントに繰り返し取り組み，基礎・基本の定着を図るだけでなく，発展的な問題に取り組んだ。

資料１　年間指導計画　４年　小数

小単元	時数	学習活動と内容	評価規準	資料
発展的・補充的な問題	1	○単元のまとめとなる適用題に取り組む。また，２つのコップを使って，決められた水の量を測る問題に取り組む。	・２つのコップに水を入れて，いろいろな大きさの小数を進んで作ろうとする。（関） ・２つのコップに水を入れて，いろいろな大きさの小数を考えることができる。（考） ・２つのコップに水を入れて，いろいろな大きさの小数を作ることができる。（表） ・小数の仕組みを理解する。（知）	
	1	○既習事項の復習をする。		
	（1）	○発展的・補充的な問題に挑戦して，学習の習熟を深める。	・自分の力に応じた問題に進んで取り組もうとする。(関)	

資料２　年間指導計画　１年　ひきざん(２)

小単元	時数	学習活動と内容	評価規準	資料
ひきさん(２)	1	○(十何)－(１位数)の繰り下がりあるひき算について，数図ブロックの操作を通して計算方法を見い出す。	・繰り下がりのあるひき算の意味を理解し，身近な問題に用いようとする。（関） ・繰り下がりのあるひき算について，計算の仕方を考えることができる。（考） ・(十何)－(１桁)で繰り下がりのあるひき算が確実にできる。（表） ・(十何)－(１桁)で繰り下がりのあるひき算の場面と計算の仕方を理解する。（知）	数図ブロック
	1	○(十何)－(１位数)の繰り下がりのあるひき算について，計算方法を作りあげる。 **計プ２８**		
	1	○減数が６以上のひき算と，求差場面の適用題を解く。 **計プ２９**		
	1	○減数が５以下のひき算と，求部分場面の適用題を解く。 **計プ３０** ○適用題を解く。 **計プ３１～３３**		
発展的・補充的な問題	（3）	○発展的な問題や補充的な問題に挑戦する。 ・場面にあった作問をして解き合う。 ・計算プリントを行う。	・自分の力に応じた問題に挑戦することができる。（関） ・場面に応じて作問することができる。（考）	

資料３　発展的・補充的な時間を活用したことによって，学力が向上した例（５０点満点）

		中間テスト		終末テスト	正答率９０％以上人数		
１組	実施人数３０人	３６．８点	→	４５．２点	１６人	→	２４人
２組	実施人数３０人	３２．６点	→	４４．１点	１４人	→	２５人
３組	実施人数３３人	４０．１点	→	４５．２点	２２人	→	２５人
４組	実施人数３４人	３６．２点	→	４６．７点	１４人	→	３１人
５組	実施人数３４人	３６．３点	→	４６点	１８人	→	２９人

資料４　指導案上の習熟度別指導計画　４年　わり算(２)

小単元	学習活動と内容		指導と評価（※）	時数
わり算の筆算(１)	じっくりコース	チャレンジコース	・見当づけた商が真の商ではなく，仮商だった場合の商の修正の仕方を考えさせ，仮商の修正を伴う筆算の仕方を考える。 ※仮商の修正による筆算の仕方を理解し，その筆算ができる。(知，表) ・個々の児童の理解度を把握し，支援の必要な児童に個別指導を行う。また，十分理解している児童には，発展的な問題に取り組ませる。 ※既習事項を生かして，進んで問題に取り組むことができる。(関，考，表，知)	１
	・(２，３位数)÷(２位数)で，仮商を修正して商を求める筆算をする。 計プ３３	・(２，３位数)÷(２位数)で，仮商を修正して商を求める筆算をする。 計プ３３～３７		
	・(２，３位数)÷(２位数)で，仮商を修正して商を求める筆算をする。 計プ３４	・商が１位数になる暗算，筆算，わり算の適用題に取り組み，習熟を図る。		１
	・商が１位数になる暗算，筆算，わり算の適用題に取り組み，習熟を図る。 計プ３５～３７	・適用題に取り組み，習熟を図る。		１

ウ　考察

・年間指導計画に発展的・補充的な時間を組み込むことによって，理解の不十分な児童に個別指導を行ったり，理解の進んでいる児童には多くの問題に取り組ませたりすることができ，児童一人一人の実態に応じた指導をすることができた。
・計算プリントに繰り返し取り組む時間が確保され，基礎・基本の確実な定着を図ることができた。
・進んで学習しようとする態度を身につけることができ，多くの問題に取り組むことができた。
・個別指導や計算問題に繰り返し取り組ませることによって，児童の学力の向上が見られた。
・興味・関心を高め，より学習を充実させるような発展的な問題の検討が必要である。
・余剰時数を使わなくても，１単位時間で基礎・基本を確実に定着させられるような指導法の工夫が大切である。

（３）　研究の成果と課題（５教科）

本校では，前述したとおり５教科で研究を行っている。その成果と課題である。

＜成　果＞

①教師が変わった。そして，児童が変わってきた。
　○児童の基礎・基本を育てると同時に，教師の基本も大切にすることができた。
　○教師の意識が高まり，教材研究をしっかりと行い，単元・時間で押さえるべきポイントを明確にして授業を行った。
　　・児童の実態把握によって，個に応じた学習ができた。
　　・導入を工夫することにより，学習意欲の向上がみられた。
　　・様々な体験的活動を重視することにより，学習意欲の向上がみられた。
　　・１年生の時からきちんとしたノート指導を行い，「学び方」を習得させることができた。
　○実態調査から，各教科ともに嫌いという児童が減り，好きという児童が増えてきた。
　　・積極的に発表しようとする姿勢がみられた。
　　・進んで自力解決できるようになってきた。
　　・各教科なりの様々な表現活動ができた。
②一人の児童に，たくさんの教師や人が関わり，よりよく育てていくよう努力した。
　○少人数指導，ティームティーチング，教科担任制，社会人活用などを行うことにより，様々な場の設定ができ，児童の多様な活動へのきめ細かな指導，支援をすることができた。また，児童を違った角度で見ることができた。
③学習環境が整ってきた。
　○実態にあったプリント，ワークシートの作成ができた。
　○環境（教室掲示や資料室，廊下掲示等）が新たに整備されてきた。

＜課　題＞

○実態調査をもとに，一人一人の児童にあった指導，支援や評価のあり方をさらに検討する。
○様々な教科における少人数指導やＴＴ，教科担任制の取り組みについても検討する。
○より効果的に指導していくことができるようなプリントなどの補助的な教材，教具を開発していく。
○各教科部会での成果を，より多く学年内に広めていく。

（４）　研究の普及の方策

○学力向上フロンティアスクール公開研究会

目　　的　研究２年目にあたる本年，取り組みの途中で，研究・授業の公開を行い，地域に広めるとともに，広く意見を求める。

期　　日　平成１６年２月１７日

日　　程　１２：２０～１２：４０　受付
１２：４０～１３：２０　全体会（研究発表）
１３：３５～１４：２０　公開授業
１４：４０～１６：１０　分科会（５分科会）

公開授業　国語科，社会科，算数科，理科，生活科の５教科

○作成した研究紀要や年間指導計画，その他の資料をＣＤにして配布する。（公開時）

○来年度も公開研究会を行う予定である。（平成１６年１１月１２日を予定）

○ホームページに研究成果等をいれ，地域に発信していく。

◇　次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。（複数チェック可）

【新規校・継続校】　□ １５年度からの新規校　☑ １４年度からの継続校

【学校規模】　□ ６学級以下　□ ７～１２学級
□ １３～１８学級　□ １９～２４学級
☑ ２５学級以上

【指導体制】　☑ 少人数指導　☑ Ｔ．Ｔによる指導
☑ 一部教科担任制　□ その他

【研究教科】　☑ 国語　☑ 社会　☑ 算数　☑ 理科
☑ 生活　□ 音楽　□ 図画工作　□ 家庭
□ 体育　□ その他

【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】　☑ 有　□ 無

【特色ある取組事例として紹介したいポイント】
佐倉市立佐倉小学校では，年間指導計画に発展的・補充的な学習を，指導案上に習熟度別指導計画を位置付けなど，計画的に個に応じた指導を実践してきた。また，教材研究に力を入れ，単元，時間でおさえるべきポイントを明確にした指導に努めている。一部の教科で教科担任制を取り入れるなど，指導体制の改善も進めてきた結果，児童の学習意欲や学力が確実に向上してきている。